

日時:平成23年1月30日(日)18:00~21:00

場所:ハートフルスクエアG 大研修室

◎主催者挨拶およびサポミに関する注意事項の説明

(クラブからの出席者紹介)服部順一GM、木村孝洋監督、尾関新太郎、林幹広、石崎義之

◎服部GM

- ・まずは日頃の皆さんの支援に心から感謝したい。また、今西社長が本日出席できなくなったこととお詫びしたい。社長はこれまでも吉備国際大学で講座を持ちながらFC岐阜に関わっているが、月曜日に授業があるため、欠席となった。ただ、今年(2011年)からは大学を離れFC岐阜の社長業に専念することになるので、ご理解いただきたい。

◎木村監督:

【監督の現在の想い】

- ・まだ岐阜に来て1週間だが、この間で感じたこと・考えていることを話したい。
- ・岐阜に来ることは去年の11月まで思いもしなかった出来事だが、大きな喜びを感じている。現在は吉備国際大学サッカー部の監督をしているが、自分のサッカー人生の目標として「いっぴしの指導者になりたい」と常々思っていた。現役を引退した後、今西社長(当時はサンフレッチェ広島総監督)の元で通訳兼アシスタントコーチから指導者人生をスタート(1995~)した。その後、ユースの監督を4年間(1997~2000)勤め、駒野や森崎兄弟と関わった。その後、トップチームのヘッドコーチになったが、2年目(2001)にチームの調子が悪化して当時の監督(ガジ・ガジエフ)を交替することになり、私が監督を務めることになった。しかし、半年ではチームを立て直すまでには至らず、降格させてしまった。広島を離れたかったのでJOCからの派遣という形で1年間、アーセナルで研修することができた。その経験は大きな財産となっている。その後、女子のチーム(TEPCOマリーゼ監督)を2年間、また、京都サンガに行き、育成もしてきた。
- ・様々な世代・男女・カテゴリーのチームで指導者をしてきた。大学を卒業して2年間教員をやっていたので、中学校の教員として部活の経験もある。これらの経験を、FC岐阜で活かしたい。
- ・私は、サッカーが大好き。だからこそ、この岐阜で成長していき、その結果として、今年6位、来年J1昇格という目標を達成したい。大げさかもしれないが、ここが自分のサッカー人生の最後といった覚悟で臨んでいる。だから結果を残したいし、選手を成長させたい。
- ・FC岐阜の選手は本当に真面目でしっかりしている。今までの経験からしても、人の話を聞けるという点で素晴らしいし、日本代表ほどの技術を持った選手はいないが、サッカーに対する姿勢も真摯である。だから、選手達の能力を引き出してやりたいし、まだ眠っている能力があるのではないかなと思っている。それができれば、面白い試合ができると思うし、期待している。
- ・現在は選手にもスタッフにも恵まれ、充実した毎日を送っているが、しかしサッカーは甘くないということも、経験から知っている。サッカーは本当に分からないスポーツで、何が起こるか、どちらが勝つかも分からない。だからこそ、真摯に取り組んでいきたい。
- ・これからリーグ戦を戦うにあたって、サポーターの力が絶対に必要になってくる。選手達もそれを分かっている。彼らの緩慢なプレーについては厳しく指摘をし、叱咤していただきたい。しかし一方で、彼らの真剣なプレーについては励ましてやって欲しい。

【監督のサッカー観】

- ・躍動感のあるサッカーをしたい。ピッチに立ち、大好きなサッカーをする選手の、瞬時の判断や信じていること、インスピレーションを大事にしたい。そうすれば、(自分たちの責任での)勝利は大きな喜びになるし、負けたときは本当に悔しく、何くそと思う。チームによっては監督の指示に気をとられすぎて、選手本来の力を出せていないように感じることもあるが、そういったことはないようにしたい。
- ・しかし、選手が100%の力を出さない時、出そうとしない時には厳しく怒ろうと思っている。
- ・戦術的には速さを追求したい。現代のサッカーでは、ゆっくりとボールを回してなかなかゴールを奪える状況ではないので、素早い攻撃、組織的な守備で戦っていきたい。
- ・勝つ可能性を増やすために、負ける可能性を減らすことを心がけている。選手には、不安となる要素(例えば睡眠不足等のコンディション不良)を極力減らすように言っている。戦術的にも、危険な要素を減らすことが大事。例えばゴール前でボールを回すのか、クリアするのか。細かいパスを繋いでボールを奪われカウンターを受けるよりは、シンプルにボールを前線に運ぶ方を指向している。

◎質問:チーム戦術として、自分たちのサッカーを貫くのか、相手に合わせる(リアクション)のか。

◎質問:自分の監督としての特徴は何だと考えているか。

◎質問:メンバー選考のポイント(基準)は?

◎木村監督

- ・自分のチームをしっかり分析した上で戦い方を決めたい。もちろん相手チームの分析もするが、基本的には自分たちのサッカーをするように選手には伝えたいし、自信を持って試合に臨んで欲しい。
- ・色々なカテゴリーの選手達を見てきたので、「選手を見る目」はあるのかな、と思う。
- ・メンバー選考の基準については、まだ選手にも言っていないので…(笑)、3~4つのポイントを考えている。例えば1対1の戦いに勝てるかどうか。過去の実績や将来の素質はあまり考慮せず、今の能力・状況を重視していきたい。

◎服部GM

【監督交代について】

- ・監督交代については、非常にデリケートかつ、クラブとしても大きな決断だった。
- ・それぞれの立場があるので細かい話はできないが、強化方針に対する意見の違いという理由については、マスコミ報道の通り。強化方針については、大枠では合意し、細かい部分を詰めていた。最後は、自分と監督が直接話をして、お互いにネガティブにならない決断にしようということになった。以前から、フロントと現場スタッフの風通しが悪いクラブがある中で、お互いに言い合える環境を作っていこうとした。しかし、それが良い方向(歩み合いの方向)に向かえば良かったが、逆にお互いの意見がすれ違ってしまい、残念ながら難しかった。
- ・監督との話し合いを秋口から進めていたし、選手たちからも秋口から契約交渉の段階で色々な話を聞いていた。もちろん、この世界で誰かの意見が100%正しいということはない。大事なのは「このクラブが正常に機能し目的に向かっていけるか」で、様々な要因を比較検討した結果、監督の交代という決断になった。
- ・GMとして、「いつ何が起こるかわからない」ため、次期監督候補者のリストを作ってあった。木村監督はその中の一人だった。最初は強化担当として招いたが、監督交替の結論になり、監督になって貰うことになった
- ・倉田さんにも「チームとして必要なこと」は伝えてあったし、ある程度はチームに落とし込んでくれたと思っている。

- ・2010年は、チーム予算(遠征費等)をかなり工夫して節約していた。倉田監督にも、その点は理解してもらえていたと思っていたが、やはりチームの強化方針(求められているもの)と予算(今応えられること)に、ズレがあった。最後に監督と話をしたけれど、お互いに今後も良い関係を維持しようと確認しあった。

【クラブの運営状況について】

- ・今年度、黒字(単年度)を達成した。しかし、それ以外にも大きな問題を多くクラブは抱えている。
- ・FC岐阜を発展させることが、また、今西社長がやろうとしていることを実現することが、将来のJリーグの為になると信じてやっている。
- ・今西社長自身、身体的・金銭的にも大きな負担を背負っているのにも関わらず、本当に努力されている。私自身、自分の使命のようなものとして、今西社長と仕事をしている。
- ・今後、Jリーグの『クラブライセンス制度』の成立が(内々ではあるが)予想される。具体的には、ハード・ソフト(スタジアムや育成組織)の整備が必要で、いくつかの基準が設定される。2008年の段階で分かっていたため、少しずつ整備を進めている。『クラブライセンス制度』ができると、これをクリアしない限り、J1に昇格できないことになる。
- ・内々ではあるが、人工芝の練習場(トレーニング場)について、2012年にはある程度の計画が出せるようにしたい。
- ・これからも、チーム強化と同時に環境整備を進めていかななくてはならない。時限立法のように、Jリーグから『何年後にはこれを満たしてくださいね』といった感じ。
- ・「なかなか選手の補強ができない」と今西社長がマスコミに言っているが、私は個々の選手に期待し、入団してもらっている。J2はまだ勢いで乗り切れるレベルであると考えている。多くの他クラブの強化担当者、リーグの技術担当者からは近年のJ2はレベルが落ちていると聞く。そのため、知恵を絞れば戦えると考えている。

【選手について】

- ・現在のチームには大卒で3年目の選手が多い。プロの世界では2年目が難しいと言われている。これまでの経験と、勝負の年である3年目を迎えた彼らの強さに期待している。
- ・今回、山田正道を強化担当にして、彼の感性・観点を参考にして今年のチーム編成をした。地味だったかもしれないが、いくつかのポイントで強化をした。
 1. (名鑑を見たり、マスコミなどにも聞いて)経験者・人格者を探した。挫折・苦労も経験し、また一度は日の目を見ている選手が欲しかった。
 2. 選手間の競争を促す為にも、サイドの選手を探した。
 3. (毎年のテーマでもあるが)地元にはゆかりのある選手。
- ・今年は退団選手を少なくした。理由は、今シーズンは横一線に並んで、最後の競争をしてほしいから。そのため登録選手を少し多めにしている。Jリーグは「25人制を」と言ってくるが、現場からの意見では、キーパー4人は欲しい。そうすると、フィールドプレーヤーが21人になってしまう、紅白戦すら難しいし、長いシーズンを戦えない。大きな歴史のあるクラブでは、ユースからの昇格もできるが、まだ我々は難しい。昨年はJリーグから(公式試合安定開催基金を)5000万円を借りていたこともあり、引け目もあった(笑)ので、24人でスタートし、シーズン途中で増やした。
- ・今年は、選手にとって『競争の年』になる。第1ウィンドウ(~4/1)、第2ウィンドウ(7/15~8/12)の2回の登録期間があるが、外に出てプレーする選手が出てくるかもしれない。もちろん、受け入れ先の都合もあり、今年は各チームとも厳しい状況になるので、何とも言えないが…。選手には、常に緊張を持って取り組んで欲しいと思っている。
- ・今西社長は「5000万を選手の強化に使いたい」と述べている。しかし、最初から勝負にいける状

況ではない。クラブの安定が最優先であり、第2ウィンドウが開く時期に勝負に行くためには、観客収入・スポンサー収入を含めて増やしていかなければならない。見込みの収入ではなく、実際の予算を確保してから、強化をしていきたい。

- ・ご存知の方も多いかと思うが、まだ外国人枠が空いている。この場で言うことはできないが、少し動きがあるかもしれない。
- ・レンタル選手の年俸についても、他クラブにお世話になって『いた』。一般的には、レンタル選手の年俸分のレンタルフィーを移籍元に払い、選手に年俸を払うのがスマートなやり方。しかし、とてもではないがレンタルフィーは払えないので、その選手を育てることで、金銭は発生させなくても、他のクラブ(磐田、大宮、FC東京…)との信頼を深めていく方針。
- ・少し挑戦してみたいのは、外国人選手を、エージェン(代理人)を関与させずに獲得したい。実は今回、セザール・サンパイオ氏(かつてJリーグで活躍。現在はブラジルで複数のクラブのGMを務める)と一緒に外国のクラブを回った。ビッグクラブであふれている選手だけではなく、「今からの選手」を獲得したい。
- ・また、選手の海外へのチャレンジ(武者修行的な)を押ししていきたい。環境を変えることで奮起することがあるし、してもらいたい。また、レンタルに出したからといって、即『片道切符』というわけではなく、出場機会のあるところで変わって欲しいという思いがある。もちろん、レンタル先の現地に実際に見に行くし、チーム関係者にも話を聞いている。そこで心が折れてしまう選手もいるのが残念だが…。
- ・「要らない」から選手を放出するのであれば、最初から契約はしない。複数年契約だと精神的に甘えてしまう選手もいるので、そのような選手は単年度でしか契約しないし、その理由も、選手に対しては言えない。クラブにとって、選手は財産だし、Jクラブの強化担当者は、基本的に選手がどうやったら伸びるか・より高めることができるかを、愛情をもって必死に考えている。

【来年度の経営について】

- ・今年度は何とか黒字で着地できた。サポーターに感謝したい。メドウ開催という手探りの状況だったが、今後もなんとか利益を上げつつ、それを地域に還元していきたい。
- ・強化費としては、大きなお金を一気に使うのではなく、コツコツと着実に(笑)使っていきたい。必要とあれば、遠征の際には新幹線やグリーン車、航空機も利用していきたい。
- ・ただ、まだ試合後にコーラを飲んだり、夜何時間もTVゲームをしたり、あるいは休日にパチンコをしたりしているといった話が若干聞こえてくるのは、本当に皆さんに申し訳ないし、恥ずかしい。そういう状況では、選手の環境を改善して、良いものを与えるつもりは(クラブ方針として)ない。選手には、もっとサッカーに意識を研ぎ澄まして欲しい。プロとしての意識の問題。
- ・また、仮に新幹線に乗せても、車内で携帯ゲーム機をしながら大騒ぎしてしまうのでは…(苦笑)。サッカーを全く知らない方が周囲から見ても恥ずかしくないようにしたいし、選手同士でも『そういった行動は止めた方がいいんじゃないか』としっかりと言い合えるチーム環境を作っていきたい。
- ・選手には、スポーツ選手として必要なことをストイックに追求して生活するようになってほしい。プロとしてベターなことは何なのか考えながらやってほしい。

◎質問：昨年度ホーム最終節でバスが故障したようだが、選手の負担を減らすためにも、年式の新しいバスを導入できないか？

◎服部GM

- ・その点については懸案事項で、去年の途中から各方面と話をし交渉している。とりあえず、エアコンが動いて、止まらない(笑)ものにしていきたい。

◎質問:クラブが三カ年計画でのJ1昇格という目標を掲げたが、なぜ3年なのか？

◎服部GM

・対外的に話が出来た状況・目標としては、2012年の国体開催のタイミングにあわせていきたいという希望がある。また、今西社長が言う言葉としては「時間がない」。細かい部分は今西社長に話をしてもらえるように伝えておく。

◎質問:Jリーグから求められている「クラブライセンス制度」の全体像を教えてください。又、そのための整備計画・優先順位を示してほしい。また、夢募金については、5000万円を返済した以上、使い道や目標を明示して募集していくべきでは？

◎服部GM

- ・大規模な施設の建設は、やはり自治体の協力なしには無理だし、自治体として最重視するのは、やはりコスト(建設コストやランニングコスト)だと思う。まずは、自治体と協力して、グラウンドを作ることが第一目標だった。大型施設を作りづらい昨今の状態であり、やはり税金を使うので、地域住民の為に目的や理由を付けて前例として定着させる事が重要。実際、岐阜市周辺を見ても人工芝のグラウンドは現在少ない。
- ・個人的には、FC岐阜の専用練習場が欲しい。しかし、作ったグラウンドをFC岐阜が占有するのではなく、地域の住民が利用し、他の市町村にもグラウンドが欲しいという声が増え、更にグラウンドが作られていく…といった、地域にメリットが生まれる構図を作っていきたい。そういった話が、やっと出来るところまでこぎ着けた。本当は天然芝の方が良いのだが、コスト面を考え、人工芝になった。しかし、人工芝は(選手の)故障が多いので…。
- ・クラブライセンスの要件は、整理して後日提示したい。2面の練習グラウンドや、メディカルルーム等が整備されたクラブハウスが条件に入っている。5年程度を目標として、確実に整備していかなければと思っている。そのためには、サポーターの皆さんに具体的なお願いをしていくことになると思う。またグラウンド等の整備の為に、様々な要件を検討する必要がある。これから一緒に『共に創る』を実施していきたい。

◎質問:宮崎キャンプは実行するのか？

◎服部GM

・この数日で決めたい。他のクラブとの練習試合もキャンプの目的なので、他のクラブと調整をしている。また、健康面への影響も考えられるので、現地とも確認している。現時点で「実施します」とは言いにくいのは事実。

※この後、2月5日に宮崎キャンプの中止が発表され、7日に高知春野キャンプの実施が発表された。

◎質問:選手たちが情報発信できる社会での、クラブの情報管理体制はどうなっているのか？

◎服部GM

・選手のブログ等に対して厳しいチェックはしていないが、「社会人としての確でないこと」に対する発信への注意や、選手個人の契約に関する情報の管理は(統一契約書にも記載してあり)重要なことだと考えているし、それはシーズン前にも徹底させている。

◎林広報

- ・FC岐阜というクラブ自体は、情報公開することが重要と考えている。選手が(一般社会人として)自分の言葉でファンに発信していくことは悪いことではないと考えているし、自分の言葉を社会に伝えていかなければならない立場だと考えている。もちろん、モラルを守って発信していくことが大事であり、Jリーグによる手引きや、クラブにも手引きがある。選手がそういったメディアで情報発信を新たに始める場合には、広報と話し合いながら進めていくことにしている。あまりクラブとして制限するのではなく、選手が自分で言葉を選んで発信して欲しい。また、クラブスタッフには当然ながら、秘密厳守を徹底させている。

◎質問:アウェイサポーター(FC東京etc...)が多くやってくる事で、岐阜の地元経済の活性化に繋がると思う。これらに対するビジネスチャンス・ビジネスプランの捉え方は?

◎服部GM

- ・まだ具体的なスケジュールが出ていない(※日程発表は2月2日)が、計画中で、今後出していきたいし、それに対する意見もいただきたい。

◎尾関運営担当

【2011年度の運営について】

- ・長良川競技場の大きな改修点は、メインスタンドの(8割の)個席化と大型映像装置の導入、陸上レーンの9レーン化に伴うバックスタンドのセットバック。しかし、既にご覧いただいた方もいるが、思ったほどは見辛いことはないと思う。
- ・2009シーズンはメインのゲート開放は2ヶ所でご迷惑をおかけしたが、2011シーズンは席区分に合わせたゲート開放(8ヶ所中、6ヶ所)をする方向で警備計画等を作成中である。
- ・屋台村は(今年度は観客動員や出店スペースの都合があったが)2009シーズン以上のものを目指す。今月中には出店者向けの説明会をする。また、『グルメ大賞』等の企画などで出店者・利用者のモチベーションを上げていきたい。
- ・ダンマク等の掲出ルールは2009年シーズンと同様にしていく。Jリーグからは「ホームとアウェイの動線を分けろ」と言われるが、岐阜の良さは、試合中のスタンドでは熱く燃え、サンサンデッキでは敵味方関係なく、試合前には屋台村に並び、試合後にはサッカーを語り合う、呉越同舟でにぎわう風景だと思っている。今シーズンは、スタンドでの岡持ちも(ドリンク中心とはなるが)出したいと思っている(※PSMと開幕戦では、実際に出ていた)。より楽しめるスタジアム作りに向けて、今後も少しずつではあるが改善していきたいし、皆さんの意見も伺っていきたい。
- ・皆さんが期待されている大型映像装置については、最初からの派手な演出はなかなか難しいかと思うが、皆さんのニーズに応えられるように、施設管理者とも話し合いをしながら、少しずつやっていきたい。

◎質問:駐車場の確保をお願いしたい。チケットは購入したが駐車場が無く、泣く泣く帰ったという話も聞いている。観客増員の為にも、要望したい。

◎尾関運営担当

- ・駐車場の確保は、今までもホーム開催で抱えている大きな問題だと考えている。これから2週間に1度、多くの観客が長良川競技場に集まることを想定し、一日市場の使用、シャトルバス等を自治体や施設側と話しながら、できる限りの範囲で検討していきたい。

◎質問:バックスタンド側からの入場口は設けるのか？

◎尾関運営担当

・ビジター側の開放は考えているが、ホーム側は考えていない。2009年シーズン同様、メインのサンサンデッキ側からの入場となる。

◎質問:アウェイからの観客動員も大事だが、やはりホーム観客の動員が最も重要。今年はJリーグ加入4年目であり、これまでの「サッカーに興味ある人」への周知はある程度済んでしまっているのではないか。アジア杯等が盛り上がり、新たな客層の開拓の検討をしてほしい。我々も協力していきたい。

◎服部GM

・有料入場観客者数はじわりじわり増えてきている。また、J昇格をして以来、地域としての認知度、集客は、ある程度のレベルに達しているという認識はクラブにもある。サッカーを知らない人々に対する仕掛けやアプローチが必要であり、そのためにも地域貢献に取り組んできており、今、少しずつ実を結んできている。ジュビロ磐田とのPSMは新規の観客層への大きなきっかけにしなければならない。現在、開幕からのPRスケジュールを作成しているところである。

・クラブも、色々な形でアプローチをしている。新規開拓の為に、この3年で作ってきた関係各所に改めて足を運び、お願いをされていて状況である。これまでもお願いばかりしており、更にお願ひするのは本当に心苦しいが、サポーター・ファンの皆さんには、もう一人(スタジアム)に連れてきて欲しい。欧州と違い歴史の浅いサッカー文化の中で、新しいお客さんをどうやって巻き込んでいくか、色々な試みをサポーターの皆さんとも協力してお願いしていきたいし、発信していきたい。そのためには、まず足を運ぶのが重要。地域貢献活動については、選手の間育成という目的もあるが、選手やクラブを知っていただき、話をさせていただく関係を作るのも目的の一つ。是非、今後とも皆さんから引き続きご意見をいただきたい。これまでも色々な場所でご意見を伺っており、非常に参考になっている。こうしたフロントと皆さんの距離がFC岐阜の良いところだと思っている。

◎林広報

・昨シーズンはキャパの関係もあり、メドウで新規のお客さんを迎えられていない。昨年はコアサポーターの人、有料の人に専用スタジアムでサッカーを楽しんでもらうことを目標にしてやってきた。その点では、有料入場者やシーズンチケット購入者が増えた。今年はメモリアルに戻ってきたので、新規のお客さんだけでなく、2008年・2009年のお客さんに戻ってきて欲しいと考えている。そのためには、4シーズンを迎えるクラブの発信力や、サッカーを知らないor興味のない人への強力な「フック」を如何に作っていくかが大きな課題。

・このためにクラブが考えるのは、やはりJリーグ最多を誇る地域貢献活動である。昨年は年間422回、そのうち133回を選手が行っている。選手と住民の方が直接触れ合うことは、新規観客層を獲得するうえで、最も強い「フック」である。新聞広告やCM以上に、強力なFC岐阜の武器だと考えている。

・まだ日程発表前なので具体的な話は出来ないが、開幕からの3月に大きな(集客の)ヤマを作りたいと考えている。これは、どのクラブでも同じ。そのヤマをGW、夏休みとシーズンを通じて繋げていきたい。皆さんには、ご協力をお願いしたい。ちなみに、FC東京と話をした時、「地域貢献活動を10年続けて、やっと平均観客動員2万4千人を達成した」と言われた。そういった地道なことがじわり効いてくると感じているし、積極的にすすめていきたい。

◎質問: マスコミ報道では、2011年度の平均観客動員目標は6000人ということだが、今年のシーズンは、実際の観客動員数や、目標数を具体的に出していったらどうか？

◎林広報

- ・現在まだ決定していないので申し上げられないが、色々と良いお話を伺っている。集客に関する数値は、公式HPで発表していきたい。また、早ければ4月にでもイベント企画をやりたい。
- ・FC岐阜は大企業をバックにしたクラブではない為、企業に対するチケット販売については非常に弱いクラブである。J1クラブの多くは企業向けに何千枚もチケット販売をしており、FC岐阜も今後は企業向けのチケット販売にも力を入れていく。現在、岐阜・各務原・大垣の商工会議所に所属する企業に、チケット販売のご案内を進めている。これから、岐阜県内の企業の方にも試合を見ていただけるような環境を整えているところである。

◎サポーターの呼びかけ等

◎服部GM閉めのあいさつ

- ・FC岐阜の良さの一つは、それぞれの方が、非常に良い距離感と関係を保ちながら、一つの方向に共に進んでいけることだと感じている。その点では、スタッフ一同、本当に皆さんに感謝しているし、責任も感じている。若干寂しい社会だったり、状況予算も限られている状況だが、情熱や夢は持ち続けて上を向いていきたい。
- ・よく、「選手は商品」と言われたりすることがあるが、自分はクラブの財産だと思っている。だから、磨かなければいけないし、大切にしないといけないし、また、叩かなくてはいけないこともある。厳しいことも含めて、何とか選手が少しでも長く選手生活を送れるよう、育てていきたい。この世界は厳しいが、選手達は岐阜に愛着を持っている。皆さんも、愛情を持って接し、褒め、叱り、応援していただきたい。
- ・この場で頂いた意見も含め、今後ともスタッフに様々なご意見を是非お聞かせいただきたい。かなり無理なお願いもするかもしれないが、シーズンが終わった後に「良いシーズンだった。さあ、来年は(J1昇格計画の)3年目だ」と言えるシーズン、勝負のシーズンにしていきたいと思う。

【サポーターズミーティング終了】